

地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！



くさぶえ

福生市立福生第七小学校
令和7年度 学校だより

福生第七小学校
ホームページ
URL



<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>

所在地 福生市北田園一丁目1番地1

発行責任者 校長 菅野 恭子

令和7年5月30日 発行

来たときよりも美しく

校長 菅野 恭子

1学期も早いことに、折り返しの時期になりました。子どもたちは4月から新しい環境で新たな目標をもって学級づくりや学習活動に取り組んでできました。6月は、少しずつ新しい環境にも慣れてくる時期でもあります。4月、5月は各学級や学年、学校全体で学習面や生活面における約束の確認や学校生活で大切にすることなどを機会あるごとに確認しました。6月は実践の月として、子どもたちが一つずつ「できた」と実感できるよう取り組んでいます。

「来たときよりも美しく」

5月20日から22日にかけて、第6学年の日光移動教室を引率しました。6年生は学年目標の他、「感謝を伝える」ことも意識することから、出発式の校長挨拶にて「人との関わり」と「来たときよりも美しく」について話をしました。日々の何気なく過ごしていることも実は多くの方々の協力や支えがあって成り立っていることに目を向け、感謝の気持ちをもって過ごすことの大切さについて話をしました。

感謝の気持ちをもてるということは、相手の優しさに気付けるということ。感謝の気持ちを伝えるには、言葉で表す他に態度で表すこともできます。食事への感謝では、「いただきます」「ごちそうさまでした」の他、綺麗に食べ、後片付けし易いように食器等を整えることなどがあります。生活環境への感謝では、使用した部屋や設備などを丁寧に綺麗に使うこと、帰る際は「来たときよりも美しく整え、感謝の気持ちを残す」ことを意識して生活しました。

その結果、最終日には宿舎の方から施設の使い方の他、「食事の片付けが大変美しく、ここまで綺麗に片付けてくれた学校は他にない」との感謝の言葉をいただきました。子どもたちは、感謝の気持ちを伝えたことにより、さらに相手から感謝の気持ちをいただけるという経験をしました。



日光移動教室の一例を挙げましたが、この考え方は日常生活の様々な場面に通じるものです。

学校生活では、日々使用している教室、下駄箱、廊下、特別教室等々、この気持ちをもって過ごすことができれば掃除の時間も取り組み姿勢が変わります。また、同じ考え方として、借りたものを返すときも同じです。借りたときよりも綺麗にして返すことで「ありがとう」の気持ちを物に込める。

「来たときよりも美しく」を意識することで相手を思い、優しさに気付けるきっかけになればと考えています。

学校でも機会あるごとに話題にし心を育てていきますので、各ご家庭でもぜひ話題にしてみてください。

日光移動教室（6年生）宿泊部屋の様子
いつ見ても各部屋の下駄箱の様子は綺麗に整っていました。意識して生活していたことが伝わりました。

